

令和3年5月28日

乳製品需給等情報交換会議（書面開催）における御意見

東宗谷農業協同組合

- 新型コロナの感染拡大による影響により、昨年春先以降、北海道では学校給食停止等による飲用需要の急減や、非常事態宣言明けの急激な需要回復など変動の大きい需給調整の役割を担いながら、生乳需給の安定に最大限取り組んできた。
- また、業務用需要の大幅な減少により、乳製品在庫が大きく積み増す等、急激に需給が緩和する中、生産基盤が棄損する事無く、感染収束後の需要に応えるため、国が措置した対策に加え、乳業者の協力も得ながら、生産者自ら約90億円を拠出し、輸入乳製品との置き換え対策を実施し、乳製品在庫の削減と生乳の需要確保に取り組んでいる。
- 一方、飼料価格の値上げ等、生産資材価格が高騰しており、これ以上の乳製品在庫の増加は酪農経営を更に圧迫する事になり、これまで酪農乳業界が一体となって取り組んできた生産基盤の維持・拡大への意欲が削がれ、「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針」の目標達成を困難にさせる事が懸念される。
- 乳製品の輸入枠については、乳製品在庫削減対策の努力が損なわれない判断をお願いするとともに、国産乳製品の需要拡大に向けた更なる取り組みをお願いする。

ホクレン農業協同組合連合会

- 脱脂粉乳やバターなどの乳製品は、昨年からの新型コロナの感染拡大により、需給環境が急激に緩和状況へと変化したことで、過去20年の中でも大きな在庫量となっている。
- これに対し、北海道では、感染終息後の需要に応えるためにも生産基盤が棄損することがないよう、乳業者の協力も得ながら、国の対策に加え、生産者自らも約90億円を拠出し、輸入乳製品との置き換え対策等による乳製品在庫の削減や、生乳の需要確保に取り組んでいる。
- しかしながら、穀物相場の急激な上昇等、飼料を中心とした生産資材価格の高騰が続く中で、更なる乳製品在庫の増加は、酪農経営の圧迫につながる他、酪農乳業界が一体となってこれまで取り組んできた生産基盤の維持・拡大への意欲が損なわれる事が懸念される。
- 乳製品の輸入枠については、乳製品の在庫削減対策の効果が最大限発揮され、大幅な緩和状況にある需給の改善が図れるものとなるようお願いする。

一般社団法人中央酪農会議

- 農林水産省が、「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針」において増産目標を掲げる中、令和2年度の生乳生産量は増産となった。
- こうした中、新型コロナの感染拡大により、昨年春から脱脂粉乳・バターなどの乳製品在庫量が増加傾向にあり、令和2年度末在庫量は、脱脂粉乳が81千t（7.6カ月）、バターが39千t（5.7カ月）と膨大な数量となっており、今年度末には、更に増加する見込みとなっている。

- こうした状況を放置した場合、生乳生産基盤強化の芽を摘んでしまう可能性が高いため、輸入枠の検証に当たっては、需給状況を踏まえ、少なくとも令和3年当初に設定した輸入枠を拡大させないようお願いする。
- また、国家貿易の輸入数量・放出時期等について、置き換え対策等が円滑に進むよう適時・適切に行って頂くとともに、業界等への指導、さらに需給改善に向けた今後の支援策の拡充や業界関係者の機運醸成等、農水省による総合的な需給調整機能を発揮頂きたい。

#### 一般社団法人日本乳業協会

- 全国の生乳生産は、前年を上回って堅調に推移している一方、新型コロナウイルス変異株の感染拡大が継続しており、需要面では、昨年からいわゆる巣ごもり需要によって順調に推移していた家庭内需要についても、ここにきて落ち着いた状況となってきた。
- 一方、業務用需要は、飲食店への時短要請や休業要請が継続されていることに加え、オリンピック・パラリンピックの開催が近づいてきているものの、インバウンド需要が戻らないことから、その回復の遅れが深刻化を増してきており、今後も厳しい状況が続くと考えている。
- 家庭用バターの需要は、依然として堅調に推移しているが、昨年から一巡して市場は落ち着いており、今後も欠品などの問題はないと考えている。
- 業務用バターについては、製菓・製パン向け需要が少し戻ってきているものの、「緊急事態宣言」が延長されたこともあり、外食・土産業界の需要は引き続き低迷していることから、当面は、全体としての業務用バターの需要回復は難しい状況にあると考えている。
- また、同様に脱脂粉乳については、需要の動きは鈍いことから、引き続き厳しい状況が続くと考えている。
- 現在、進めている脱脂粉乳の飼料用等への活用対策や、新たに措置されたバター等の需要拡大対策によって一定量の在庫解消が期待されるものの、脱脂粉乳・バターともに在庫水準は非常に高く、生産量がさらに増加する見通しであることから、本来「バター・脱脂粉乳ともに輸入する必要はない」と考えており、国家貿易による乳製品の輸入・売渡については、国内の需要を踏まえて適切な運用をお願いする。

#### 一般社団法人Jミルク

- 2020年度の生乳需給は、新型コロナウイルス感染拡大の影響によって、短期間で大幅な緩和とひっ迫を経験したが、業務用需要については、感染防止のための人流の抑制などにより、今後も外食や観光業等への影響は長期化するものと見込まれることから、引き続き低調の可能性が高く、また、家庭用需要についても、巣籠り需要で好調に推移した昨年と比べ落ち着いた状況にあるため、生乳需給は緩和傾向で推移するものと考えられる。
- このような状況の中、昨年からの業務用需要の低迷によって、在庫が高水準となって

いる脱脂粉乳・バターについては、政府並びに生産者団体における需要拡大対策を最大限活用しながら、業界全体での新たな需要創出などの需要拡大と適正在庫に向けた取り組みを推進していくことが必要である。

- 国家貿易による乳製品の輸入・売渡については、TPP11、日 EU・EPA による低関税の輸入数量枠がさらに拡大する中、国内の需給動向を考慮し、適切な運用を期待している。

#### 卸売業者

##### 【業務用】

- バターについては、昨年と比べると、各業態において極端な生産調整もないことから、百貨店・お土産・洋菓子・和菓子・パン等でバラバター・シートバター・プリントバターなどの販売数量は回復しているものの、2019 年度比実績は二桁以上落ちており、業務用は引き続き厳しい状況にある。
- 脱脂粉乳については、前年度のスポット価格での契約消化が一部の得意先で持ち越されており、乳製品以外の食用油・油脂・液卵・小麦粉などの高騰を受け、調製品への配合変更を実施しているユーザーもいる。天候の影響もあり、引き合いが弱く、これまで在庫を抱えていたユーザーも適正在庫にて管理するようになっているため、使用量と在庫量の変化を注視していく必要がある。

##### 【家庭用】

- バターの小売店への納品は、基本的に前年の数量に基づいて割り当てられているため、納品率は 100%（※）となっていないが、当社のバター納品率は昨年 11 月以降、80% 以上で推移しており、売場における欠品は完全に解消され、供給は順調であると認識している。

（※）「納品率」 = 「小売店への納品数量」 ÷ 「小売店からの発注数量」。  
100%というのは発注どおりに納品したということ。

- 一方、バターの需要は、当社の本年 2～3 月の売上高前年比は 99.4% に対し、4 月は 78.2% と大幅減となっていることから、昨年春のような緊急事態宣言下での巣ごもり需要は生じていない。
- 本年は、売上高前年比の落ち込みをいかに取り戻していくかという、昨年とは異なる課題解決に向けて、各メーカーと連携を強化し、鋭意尽力していきたい。

#### 一般社団法人全国スーパーマーケット協会

- 5 月 21 日発表のスーパーマーケット販売統計によれば、乳製品を含む日配品カテゴリの販売実績は、2020 年比（92.2%）、2019 年比（106.2%）であり、特に牛乳、チーズ、バターで大きな反動減が生じた。
- 他方、2019 年比では 106% であり、在宅時間の増加による需要拡大や家庭内調理機会の増加は引き続き続くと予想しており、前年同月比に必要以上に振り回されることなく、着実に販売活動を行っていきたい。

- 店頭でのバターの欠品は報告されていない。

#### 一般社団法人全国消費者団体連合会

- 家庭内需要の増加傾向は、コロナの感染拡大が継続しているため、今後も継続すると考えている。
- また、家庭用の乳製品は、昨年ほどの急激な変化はないものの、健康需要も相まって、家族の食生活の必須アイテムになっている。
- 特にヨーグルトに関しては、消費者の健康や免疫力向上意識の高まりによって、「機能性表示食品」の需要が伸びていることを実感しており、消費者の健康ニーズに関しては乳製品の需要全体の傾向としてとらえる必要があるのではないか。
- 乳製品の需給については、新型コロナの他、昨今の気象の傾向として、季節の移り変わりが急激になっていることや、記録的な猛暑の予想、大規模な気象災害への懸念など、今後、夏から秋にかけて多くの不安要素があるため、不測の事態に向けた慎重で安定的な対策をお願いします。

#### 一般社団法人日本パン工業会

- バターの調達、パン業界におけるバターの需要が安定的に推移している中で、特段の支障はない。支援措置もあり、調製品からの国産バターへのシフトも進んでおり、国産バターの調達・使用割合が増えている。
- 今後も、国産バターの安定供給をお願いします。

#### 協同組合全日本洋菓子工業会

- バターの調達に引き続き特段の支障はない。
- 今夏は猛暑が予想されているが、生乳生産量の減少等がバターの供給に影響を及ぼすことがないよう、引き続き安定供給をお願いします。

#### 一般社団法人日本洋菓子協会連合会

- バターの供給は、昨年末から年明け3月にかけての繁忙期においても、大きな問題はみられず、その後も安定した状況は続いている。
- 一方、バターの消費量については、依然として新型コロナウイルス感染症の収束が見られないことから、家庭での生菓子の購入・消費は好調であるが、遠出を控える傾向から贈り物としての焼き菓子の消費減少傾向が続いており、その影響を懸念している。

#### 全国菓子工業組合連合会

- 菓子業界では、新型コロナによる旅行客の減少等から、土産菓子や贈答用を中心に販売額減少等の大きな影響が出ている。
- 一方、巣ごもり需要とみられる堅調な家庭内需要もあり、洋菓子の中には好調な販売を示すものもあるが、土産菓子等の減少はカバーしきれていない。

- 乳製品の供給については、量的な不安はないものの、バターの高止まりとしており、経営を圧迫しているため、今後の検討に当たっては、低廉な乳製品の供給が行われるよう配慮をお願いします。

(以上)